

## 1. 授業の目的と概要

現代社会での生活に「企業」は欠かせない存在である。この授業では、企業について経済学的に理解することを学ぶ。具体的には、日本の企業システムを対象として、これを取引費用理論（TCE）を中心とした組織の経済学によって理解するアプローチと、その問題点を考察する。このことを通して、社会人の基礎的素養としての、企業に関する冷静で自立的な分析と考察の能力を養う。

## 2. 学習の到達目標

- ・ 企業を経済学的に理解する様々なアプローチについて学ぶ。
- ・ 組織の経済学による企業認識の体系を学ぶ。
- ・ 日本の企業システムの概要を、雇用システム、企業間システム、金融システム、コーポレート・ガバナンスの各々の側面から理解する。
- ・ 組織の経済学による日本企業論について、その意義と問題点を学ぶ。
- ・ 日本企業理解の新たなアプローチについて学ぶ。
- ・ 社会人の基礎的素養として、企業システムに関する冷静で自立的な分析と考察の能力を養う。

## 3. 授業の内容・方法と進度予定

1．企業・産業の経済学（マルクス経済学、S-C-Pパラダイム、TCE） / 2．内部組織の経済学 / 3．雇用システム / 4．日本的経営 / 5．企業間関係システム / 6．金融システム / 7．コーポレート・ガバナンス / 8．組織の経済学を超えて

ミクロ経済学、マルクス経済学、経営学のいずれかの基礎があれば、この授業は理解できる。

この授業のスタイルはケースの記述と推論を重視するものであり、数理的分析を行うものではない。

日々のニュース、産業や経営事情に関心を持つことが理解への早道である。

## 4. 成績評価方法

期末テスト：70点

小テスト：30点。予告なしに3回行う。

発言：学生にあてて発言してもらい、加点・減点を行う。

## 5. 教科書と参考書

教科書：宮本光晴『企業システムの経済学』新世社、2004年。古書でも良いが、必ず入手すること。

## 6. その他（履修の条件、連絡先、オフィスアワー、予習と復習等）

教科書の内容は一通り解説する。解説のペースについてくることができる限りは、予習しなくとも理解できるが、一度の解説では分かりそうにないと思った人は予習した方がよい。また、時事問題を頻繁に事例として用いるので、経済ニュースをよく読むという予習が必要である。

復習は、きちんとしないと期末テストをクリアできない。

オフィスアワーは授業中に指定する。

2 - 8年前の授業のレジュメ・資料等は教員ホームページにある。